



見る、聞く、知る。
活きる技術

京都大学原子炉実験所

ASF講演会 **2012**
 [アトムサイエンスフェア]

10/13 sat 14:00▶17:00

会場:熊取交流センター(煉瓦館)「コットンホール」

定員:180名(先着順) 参加料:無料 対象:中学生~一般

※お申込み不要です。当日会場へお越し下さい。

開会の挨拶 14:00▶14:05 森山裕文(京都大学原子炉実験所所長)

講演1 14:05▶15:05 講師:谷垣 実(京都大学原子炉実験所・助教)

GPS運動型放射線計測システムKURAMAの開発と運用
 ~地域を見守る「目」~

休憩 15:05▶15:30

講演2 15:30▶16:30 講師:海老原充(首都大学東京 大学院理工学研究科・教授)

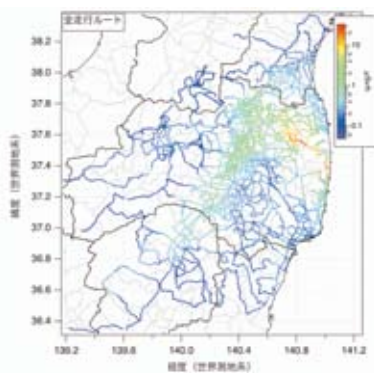
宇宙からのお土産“はやぶさ探査機が持ち帰った微粒子”の分析
 何が分かったか?

全体質疑、挨拶、閉会 16:30▶17:00 進行:福永俊晴(京都大学原子炉実験所副所長)



●JR熊取駅前(南海バス「山の手台・小谷(おだに)方面」)~「五門」下車(約5分)徒歩約1分
 ※南海本線でお越しの方は、泉佐野駅から「熊取駅前・山の手台・小谷方面」に乗車(約15分)

お問い合わせ先:京都大学原子炉実験所 総務課総務掛 〒590-0494 大阪府泉南郡熊取町朝代西2丁目 TEL 072-451-2310



講演1 14:05▶15:05

GPS連動型放射線計測システム KURAMAの開発と運用 ～地域を見守る「目」～

福島第一原子力発電所事故で広範囲で深刻な放射性物質による汚染が発生しました。京都大学原子炉実験所ではKURAMA (Kyoto University RAdiation MApping system) およびその発展形のKURAMA-IIを開発、福島県や文科省他の汚染状況の迅速かつ詳細な調査に幅広く活用されています。今回はKURAMA及びKURAMA-IIのあらましや開発のエピソード、今後の展開などを紹介します。



谷垣 実 (京都大学原子炉実験所・助教)

- 1996年 ● 大阪大学大学院 理学研究科博士後期課程単位取得退学
東北大学サイクロトロンラジオアイソトープセンター講師(研究機関研究員)
- 1999年 ● 大阪大学 博士(理学)
京都大学原子炉実験所助教
[現在の専門] 原子核物理と原子核をプローブとした物性研究

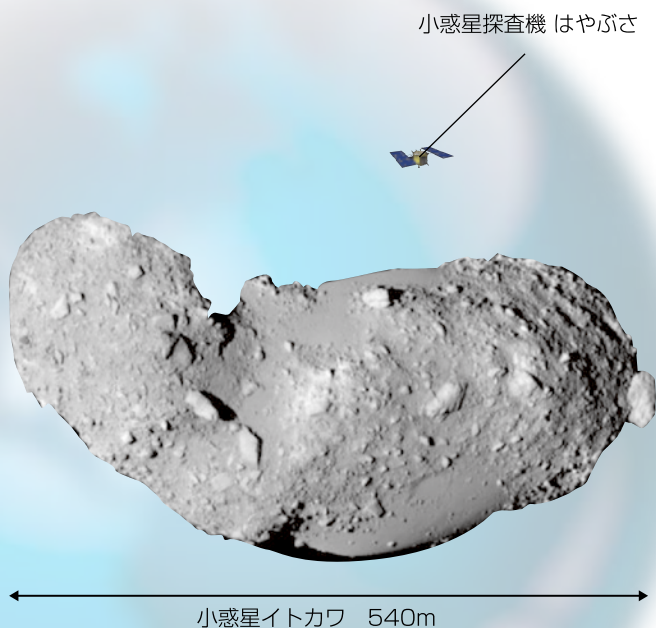
ASF講演会 2012

[アトムサイエンスフェア]

講演2 15:30▶16:30

宇宙からのお土産 “はやぶさ探査機が持ち帰った微粒子”の分析 何が分かったか？

一昨年、7年ぶりで地球に帰還したはやぶさ探査機は小惑星イトカワから貴重な試料を持ち帰った。1500個を超える粒子が回収されたが、いずれの粒子も重さは1mgの1/1000以下、大きさにして1mmの1/10以下という微小なものばかり。しかし、そのようなイトカワ微粒子の分析からは、これまでに知られていなかった事実がいろいろ明らかになった。本講演では、京都大学原子炉実験所の研究用原子炉を使って得られたイトカワ微粒子の分析結果を中心に、微小粒子の分析で何が新しく分かったかを簡単に紹介します。



海老原 充 (首都大学東京 大学院理工学研究科・教授)

- 1974年 ● 東京大学理学部化学科卒
- 1979年 ● 東京大学院博士課程修了
シカゴ大学エンリコフェルミ研究所博士研究員
- 1982年 ● 群馬大学講師
- 1986年 ● 群馬大学助教授
- 1988年 ● 東京都立大学助教授
- 2001年 ● 東京都立大学教授
- 2005年 ● 首都大学東京教授
[現在の専門] 宇宙・地球化学、放射化学、分析化学